

令和3年度 第4回磐田市多文化共生社会推進協議会 摘録

日 時	令和3年12月23日（木）午後7時00分～9時00分
場 所	磐田市役所本庁舎4階 大会議室
出席委員	池上 重弘会長、玉田 文江委員、藤田 允委員、川原 利彦委員、 渡邊 カルロス委員、相川 アンジェラ委員、青島 彰委員、 小沼 裕樹委員、江間 啓之委員、松尾 真里委員、薛 堅委員 平野 利直委員
事務局	地域づくり応援課 課長補佐、職員2人
オブザーバー	学校教育課（勝又） 多文化交流センター（杉田、山田）

[会議内容]

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

- (1) 第3回協議会の振り返り【資料1】
- (2) 外国人市民向けヒアリング結果【資料2-1】【資料2-2】
- (3) 第4次磐田市多文化共生推進プラン冊子（修正案）説明【資料3】

4 協議事項

- (1) 第4次磐田市多文化共生推進プラン冊子（修正案）説明【資料3】

5 閉会

[資料内容]

【資料 1】 第3回磐田市多文化共生社会推進協議会 会議摘録

【資料2-1】 磐田南高校（定時制）生徒向けヒアリング結果

【資料2-2】 神明中学校 外国籍生徒向けヒアリング結果

【資料 3】 第4次磐田市多文化共生推進プラン冊子（修正案）

[会議概要摘録]

1 開会（事務局）

- ・欠席者は2名「松下 晴彦委員」、「田中 琢間委員」

2 池上会長あいさつ

- ・前はオンラインで協議会を開催した。対面ならではの良さもあるため、今回はみなさんと顔を合わせることができてよかった。
- ・出入国在留管理庁が「庁」になったことで大きな動きがある。今年前半、外国人と共生するための有識者会議が開催され、私も毎月1回出席している。その会議体から意見書が提出された。目的は3つある。
 - ①「すべての人が安全に暮らせる社会」、②「多様性にとんだ活力ある社会」
 - ③「お互いに個人の尊厳と人権を尊重し差別のない社会」日本人が安心安全に暮らせるために多文化共生をすすめているニュアンスがあるが、今回はすべての人ということで、国籍は関係なくすべての人を対象にしている。あくまで意見書であり、すべてが実現するわけではない。今までは省ごとに施策を考え実行していたが、庁ができたため「司令塔」的に束ねることができる。
- ・本日は、私のゼミ生が傍聴できている。挨拶を。

【山下】

- ・多文化共生を勉強している。日本語教育についても活動している。よろしくお願ひします。

3 報告事項

- ・インターナショナルフェアの紹介

【川原】

- ・磐田袋井掛川インターナショナルフェアを開催予定。1月22日、23日にららぽーとで行う。2日間での開催は昨年度から。昨年同様、3市合同で行う。今年はコロナ感染状況が落ち着いているため、例年の規模感で開催予定。3市の市長、ブラジル領事館の総領事が1月22日に来館し、コメントをいただく予定。TV局や新聞会社などのメディアにも呼び掛けている。当日は駐車場へ20店舗の世界の料理店が並ぶ予定。ぜひお越しください。

【池上】

- ・ららぽーとで3市合同で行うことは珍しいこと。市長を招くことや商業施設で開催するのは珍しい。実行委員会も多様な人が関わっている。また、4市1町で多文化共生の広域の協議会を開催予定である。行政も広く連携しようという動きが広がっている。

(1) 第2回協議会の振り返り【資料1】

- ・事務局より資料1について説明
(質疑応答)

(2) 外国人市民向けヒアリング結果【資料2】

- ・事務局より資料2-1、2-2について説明
(質疑応答)

【江間】

- ・生徒からは前向きで率直な意見が聞けたと思う。

【小沼】

- ・市の担当者と校長の私がいたため、生徒は緊張していたように見えた。
結果にもあるように、本日も中学校の終業式があったが外国人生徒が親の通訳のために欠席した。そんな状況を改善できたらと思う。

【川原】

- ・ICTの活用によって母国語に変換することが簡単にできるため、そのようなアプリを学校に導入してほしいと思う。多様的に活用できるのではないかと
思う。現状どうなのかききたい。

【勝又】

- ・磐田市は令和3年度から小1～中学3年までタブレットかパソコンを導入しており、言葉の変換アプリをインストールしている。
デジタル教科書があれば、読み仮名が勝手に振られるようになる。そのほかにも様々な便利なアプリがある。今後も活用できたらと思う。

【川原】

- ・大人の日本語教室にも利用できればと思う。

【池上】

- ・小中学校に導入しているため、高校はどうしようかと検討しているが、指導要領が異なるためすぐに導入は難しいのではないかと
思う。
幼稚園からお互いの文化を知る必要があると書かれているが幼稚園は実際
どうなのか。

【松尾】

- ・日本文化に触れる機会はあるが、外国の文化に触れる機会はない。
食品規制が緩かった時代は、バザーの中で外国料理をふるまったことがある。

【池上】

- ・幼少期から多文化に触れることができればと思う。
子育て支援センターで異文化に触れる機会はないのか。

【事務局】

- ・国籍に関係なく、ダンス等の催しをしている光景は見たことがある。
保護者同士の交流はわからない。

【山田】

- ・時々、外国籍のお子さんがきて、リズム体操等をしているが数は多くない。

【カルロス】

- ・生徒が通訳するために学校を欠席することが現在もあることに驚いた。学校で子供の勉強機会を大切にするための親向けの勉強会はあるのか。進めることができないのか。

【小沼】

- ・親向けにアナウンスはしているが夜に会合等の場所を設けることは、仕事をしている人がほとんどできない。入学式や懇談会の際に行っている。

【青島】

- ・PTAの交流の場で外国籍の親の集まりがあるが、現在は参加者が少ないなど難しい。今は「なんでも相談」を親は利用している。

【相川】

- ・磐南の定時制でお金の教育をした。将来のことについて話をした。高校生は将来に対して夢を持っているが親とのギャップがある。定時制は家計を支えるため通っている。金銭面の問題で生徒の夢を奪っている。ブラジル学校の生徒はブラジルに帰りたい、母国語を話したい願望が強い。中には日本語の勉強に熱心な生徒もいる。やはり金銭面の問題で夢をあきらめることがある。本当は親に話をしたい。大人向けの日本語教室で、子供たちの日本語能力に頼りすぎているなどの話をした。

【池上】

- ・日本語教室で教える側が高齢化して話が通じないは現状あるある問題。掛川ではオンラインで日本語教室をしているNPOがある。オンラインなので、教える側も全国から同世代を募集できる利点がある。外国人の高齢化に加え、支援者側の高齢化も視野に入れてプランを作成していきたい。

(3) 第4次磐田市多文化共生推進プラン冊子（修正案）【資料3】

- ・事務局より資料説明

4 協議事項

(4) 第4次プラン冊子（修正案）の見直し【資料3】

- ・基本方針14、15について

【平野】

浜松市が外国人雇用制度を導入したため、磐田市も導入してほしい旨を市長に話をした。実態調査を“頑張る企業応援団”で行うことを決めた。本社はアセスメントをいただき、評価をしてもらった。★一つの評価を一般社団法人に認定してもらった。

実態調査において認定制度に向けたアンケートを実施してほしいと思う。

入管庁の大きな柱として「人権」が挙げられていた。

ドイツでは人権尊重を掲げている企業でないと契約が結べない法律が制定されるようになった。

昨日、国連関係の人が会社見学に来た。実態調査をしても、中小企業だとまだまだ法律の周知がされていない状況。そういった人権に関する項目も加えた実態調査をしてほしい。

【池上】

- ・ ESGの要点をクリアしてないと投資家が投資しない。

環境への配慮やハラスメントの対応、就業条件等をクリアしないと業績につながらない時代がきている。

そういった視点を経済観光課にもっていくと制度の導入が進むかもしれない。移民政策学会の折、ドイツでの研修会での話として、アジアの労働者は日本をトランジット（中継地点）だと考えていると聞いた。日本は危機感を持たないと、外国人労働者が入ってこなくなる。

技能実習生や特定技能仲間で SNS を通じて磐田の良さを伝えることもできる。今後は外国人に来てもらわなきゃいけないし、来てよかったと思ってもらえるような環境を整備しなければいけない。そうでなければ置いていかれる。

- ・ 基本理念について

【青島】

- ・ 前回よりも多文化共生が伝わる。しかし「笑顔で挨拶をかわす」でとどまっていいのか。その先を目指すまちの言葉を入れたほうが積極性がある。もう一歩踏み込めたらと思う。

【池上】

- ・ 磐田が選ばれて、ここに来てよかったと思えるような文言がいいのではないかとのことですね。

- ・ 基本方針 1 について

【藤田】

- ・ 挨拶は外国人と日本人の切り口、地域活動にすると自治会活動・防災・お祭り・環境美化等の活動をしないと共生がうまくいかない。
現状は企業を通して技能実習生と繋がりたいが企業との連携がうまくいっていない。

【玉田】

- ・ 「地域づくり」はみんなでつくるという義務感がある。限定されたイメージがあるためもっと広い意味の言葉に変更すればどうか。

【杉田】

- ・ プランについて初期から携わっている。内容が確実に進化しており、とてもよ

い進め方をしようとしていると感じる。

多文化交流センターにくる子どもは、複雑な家庭環境の子が多い。

外国人が自治会を認識してない人が多い。自治会は国籍に関係なくみんなで活動するものだと、自治会から投げかけているのか伺いたい。

センターは自ら動き取り込んでいる。公団住宅は90世帯おり、外国籍は56世帯暮らしている。外国籍の方が多く割合が逆転している。

こんな中であるからこそ、声を掛け合いながら自治会活動をする必要がある。

自治会は待っているだけでなく、自ら声をかけていかなければならないと思う。

【玉田】

- ・「認め合える社会」にしたらどうか

【池上】

- ・基本方針の語尾の方向性を統一する必要があるかもしれない。

・キーパーソンについて

【青島】

- ・指導者という限定した人にするより、曖昧なキーパーソンの方がよいのでは。

【事務局】

- ・カタカナ表記が外国人にとってわかりやすいのか聞きたい。

【薛】

- ・英語に翻訳するとキーパーソンはわかる。ロールモデルは説明ないと難しい。

【池上】

- ・注釈をつけると問題は解決される。

・基本方針4について

【渡邊】

- ・インパクトはアルファベットの方がいい。“いわた”より“IWATA”が良い

【池上】

- ・ひらがなが続き読みづらい。日本人はアルファベットでも読める。

【川原】

- ・仕事でデザインを行うことがあるが、自分ならアルファベットの表記が良い。

・具体的な施策⑯について

異議なし。

・具体的な施策⑰について

意義なし

・ 内容・方向性 22、25 へ幼稚園保育園課が追記されたことについて

【勝又】

- ・ 幼稚園保育園課が入る事がとても嬉しいこと。
母語の大事さを培うのは幼少期と聞いているため、大変良い。

・ ロールモデルについて

【池上】 注釈をつける

・ 基本施策(8)について

【池上】

- ・ 天竜厚生会の理事長らと懇談した。天竜区は高齢化が進み若者も町を出る人が多いが、地元に残ることを希望する人もいる。
天竜厚生会から天竜高校に福祉部門をつくってほしいかと提案し、県もそうした方向で検討することを認めた。
10 年後は外国人も介護を受ける側になる。そうなれば母国で介護を受けれる整備が必要になる。在日コリアンの方がそういった経験があると思う。
在日の方から学ぶことも必要かもしれない

・ 全体を通して

【玉田】

- ・ 表紙の「対等な関係を築こうとしながら」に違和感がある。

【池上】

- ・ 「築きながら」が一般的であるが、これは総務省の示した言葉を使っている。
この文言の提案者からは、現実には関係を築くことはそう簡単なことではない。
みんなが考えて進めていく必要があるためこの文言にしていると聞いている。

5 閉会